

足 監 査 第 37 号

平成 30 年 8 月 29 日

足利市小俣財産区管理者

足利市長 和 泉 聡 様

足利市監査委員 岡 本 篤 典

足利市監査委員 岡 部 記 和

足利市監査委員 柳 収 一 郎

平成 29 年度足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算審査意見
について

地方自治法第 233 条第 2 項の規定により審査に付された平成 29 年度足利市小俣
財産区特別会計歳入歳出決算を審査したので、その結果について、次のとおり意見
を提出します。

平成 29 年度 足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

平成 29 年度 足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算

第2 審査の期間

平成 30 年 8 月 1 日から平成 30 年 8 月 22 日

第3 審査の方法

審査に当たっては、管理者から審査に付された平成 29 年度足利市小俣財産区特別会計歳入歳出決算書及び附属書類と会計管理者及び担当部課が所管する諸帳簿等を照合し、計数の確認を行ったほか、事務事業及び予算の執行状況等について関係職員からの説明を聴取して行いました。

第4 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令にのっとり作成され、また、計数も関係諸帳簿、証ひょう書類と符合し、予算の執行もおおむね良好でありました。

なお、歳入歳出差引残高は、出納閉鎖日現在における指定金融機関等の預金現在高証明書と一致し、正確であることを確認しました。

審査の概要は、次のとおりです。

(注) ・ 本文及び表中の金額は、原則として百の位を四捨五入し、千円単位としました。このため、合計額と内訳の計が一致しない場合や決算書と一致しない場合があります。

また、前年度対比は、原則として、千円単位の数値で比較しました。

- ・ 比率(%)は、原則として小数点以下第 2 位を四捨五入しました。このため、内訳の合計が 100.0 とならない場合があります。
- ・ ポイントとは、百分率(%)を比較した場合の単純差引数値です。

1 財政運営の状況

本年度の財政運営の状況をみると、前年度に比べて歳入は 65.0%減少し、歳出も 79.1%減少しています。

財政収支をみると、本年度の実質収支 5,149 千円から前年度の実質収支 5,551 千円を差し引いた単年度収支は 402 千円の赤字となり、基金の積立てや取崩しは

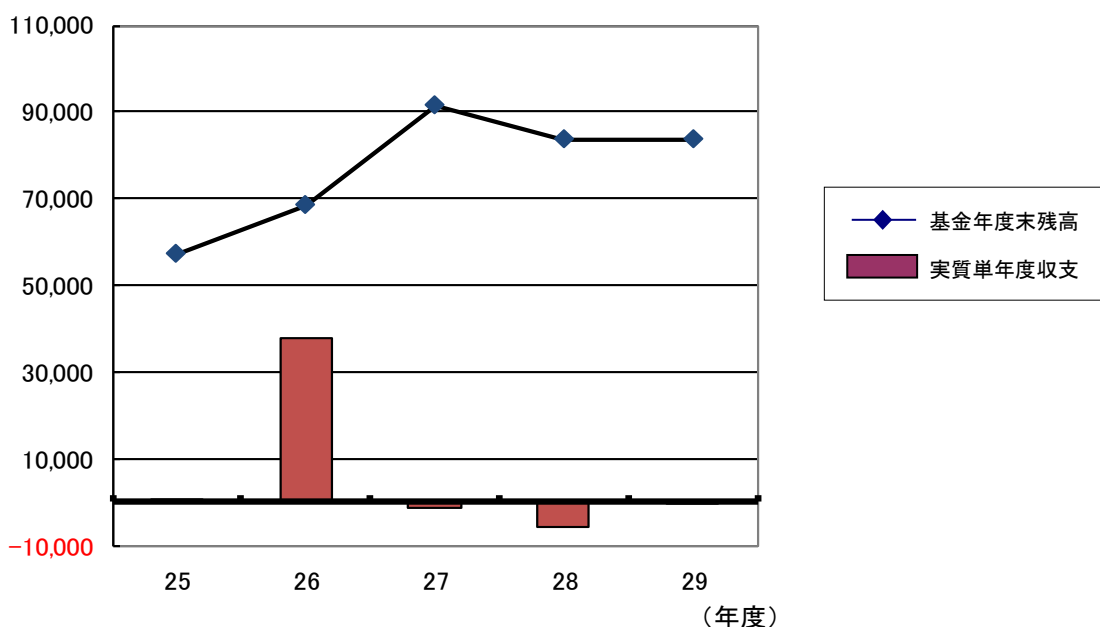
なく、実質単年度収支は 402 千円の赤字となっています。

歳入の構成は、主に繰越金 55.9%、土地貸付料 23.7%となっており、また、歳出の構成は、主に区有林維持費 56.1%、事務費(一般管理費)26.8%となっています。

区有林造成基金は、年度中の増減がなく、残高が 83,600 千円となっています。基金本来の目的に沿った運営に努め、先人が残した公の財産を適正に管理してください。

また、社会経済の変化を正しく把握するとともに、歳出等の削減を計画的に進め、収支の改善に努めるよう要望します。

(千円) 区有林造成基金残高と実質単年度収支

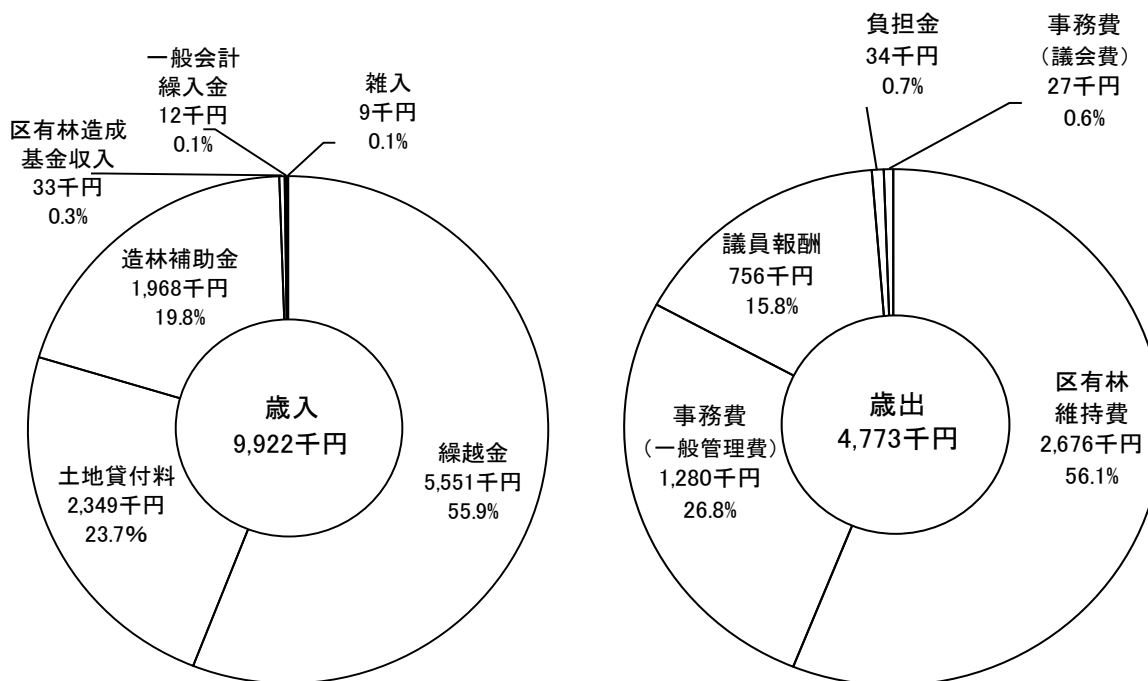


財産区は、地方自治法第 294 条等において、その所有する財産又は公の施設の管理及び処分が主たる目的で、財産の適正な維持管理を行うことにより、住民の福祉の増進に寄与するとともに、地区と市との一体性を損なわないように努めることが求められています。

また、地球環境の保全が求められ、森林が果たしている様々な機能が注目されています。郷土の貴重な緑を護るとともに、水源涵養という観点から、将来の展望を踏まえ、これに係る財源の確保と森林の育成に配慮されるよう希望します。

2 歳入、歳出

本年度の歳入歳出決算の構成比率は、次のとおりです。



(1) 歳入

(単位 千円・%・ポイント)

年度	区分	予算現額	調定額	収入済額	収入未済額	収入率	
						対予算	対調定
29		6,100	9,922	9,922	0	162.7	100.0
28		26,000	28,353	28,353	0	109.1	100.0
比較増減		△ 19,900	△ 18,431	△ 18,431	0	53.6	0.0
増減率		△ 76.5	△ 65.0	△ 65.0	-	-	-

歳入決算額は 9,922 千円で、予算現額に比べて 3,822 千円(62.7%)の増、収入率は 162.7%となったものの、前年度に比べて 18,431 千円(65.0%)減少しています。

これは、主に、繰越金が 2,205 千円(65.9%)増加したものの、造林補助金が 12,627 千円(86.5%)、区有林造成基金繰入金が 8,000 千円(皆減)減少したことによるものです。

収入の主なものは、繰越金 5,551 千円(構成比 55.9%)、土地貸付料 2,349 千円(構成比 23.7%)、造林補助金 1,968 千円(構成比 19.8%)です。

調定に対する収入率は 100.0%であり、収入未済額はありません。今後も引き続き期限内徴収に努めてください。

収入の事務処理は、適正に行われていました。

(2) 歳 出

(単位 千円・%・ポイント)

年度 \ 区分	予算現額	支出済額	不用額	執行率
29	6,100	4,773	1,327	78.2
28	26,000	22,802	3,198	87.7
比較増減	△ 19,900	△ 18,029	△ 1,871	△ 9.5
増減率	△ 76.5	△ 79.1	△ 58.5	-

歳出決算額は4,773千円で、執行率は78.2%となり、前年度に比べて18,029千円(79.1%)減少しています。

これは、主に事務費(一般管理費)が30千円(2.4%)増加したものの、区有林維持費が18,059千円(87.1%)減少したことによるものです。

支出の主なものは区有林維持費2,676千円(構成比56.1%)、事務費(一般管理費)1,280千円(構成比26.8%)となっています。

なお、不用額は1,327千円で、主なものは、予備費529千円を除くと、財産管理費の委託料562千円、同役務費87千円であり、本年度の事務事業は、これらを除いておおむね予定どおり執行されているものと認められました。

支出の事務処理は、おおむね適正に行われていましたが、補助金について課題が認められました。

3 財産の管理

土地は441,798㎡で、本年度中の増減はありませんでした。

立木の推定蓄積量については、本年度中に所有17㎡の成長により、年度末現在高は2,562㎡となっています。

区有林造成基金は、本年度中の増減がなく、年度末現在高が83,600千円となっています。

財産の管理については、おおむね適正に行われていました。